
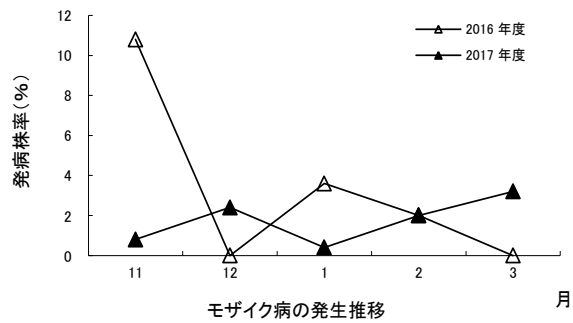
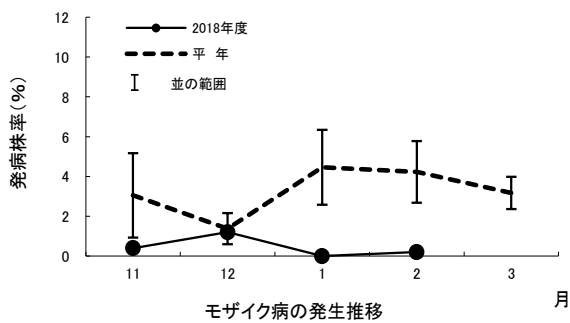


作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	① モザイク病		
2月の発生量（現況）		少	
3月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		媒介虫であるアブラムシ類の発生量が増加する見込みから、2月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



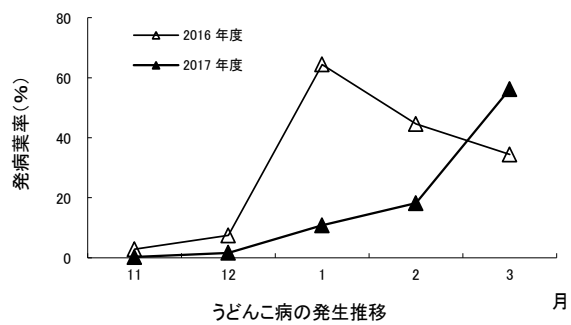
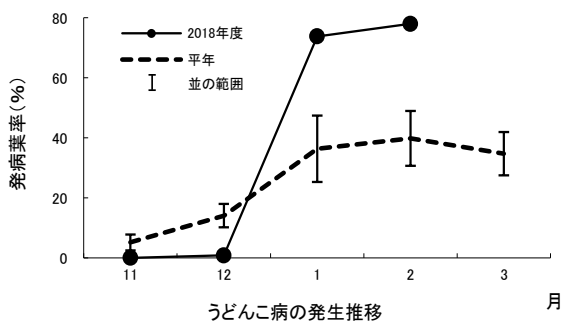
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病株率（%）：0.2（前年2.0、平年4.2、判定「少」）

防除のポイント

- ・ ほ場周辺の管理されないウリ科作物は、重要な感染源になるので除去する。
- ・ ほ場周辺の雑草は、媒介虫であるアブラムシ類の発生源になるため除去する。
- ・ ソルゴーや防風ネット等の防風垣は収穫期まで残り、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 発病株は感染源となるので、見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、管理作業に使用するハサミなどの消毒、洗浄を行う。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	② うどんこ病		
2月の発生量（現況）		多	
3月の増減傾向		→	
増減傾向の根拠		発病葉率の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



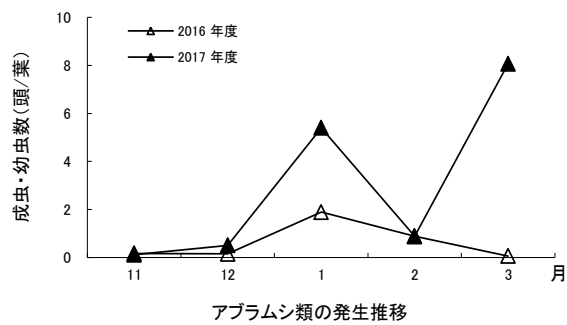
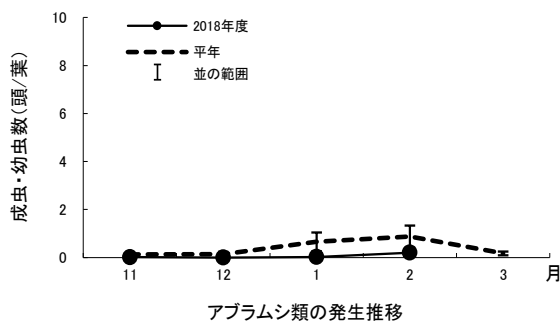
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病葉率（%）：78.0（前年18.2、平年39.8、判定「多」）

防除のポイント

- ・ 感染源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
2月の発生量（現況）		やや少	
3月の増減傾向		↑	
増減傾向の根拠		今後1か月の気温が高い見通しから、2月より発生量は増加すると考えられる。	

発生量の根拠（調査結果）




- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫・幼虫数（頭/葉）：0.20（前年0.88、平年0.87、判定「やや少」）

防除のポイント

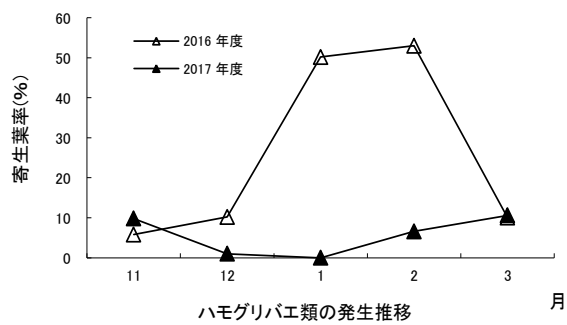
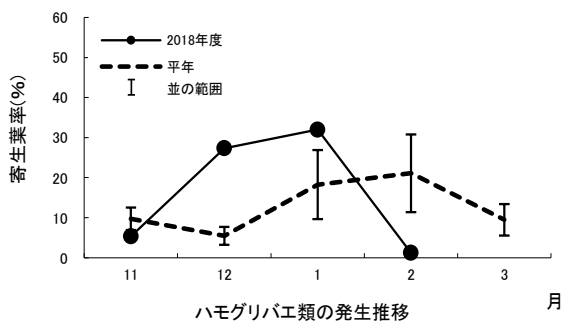
- ・ 本種はモザイク病を媒介する。
- ・ ソルゴーや防風ネット等の防風垣は収穫期まで残し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。



アブラムシ有翅虫

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
2月の発生量（現況）		やや少	
3月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		今後1か月の気温が高い見通しから、2月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



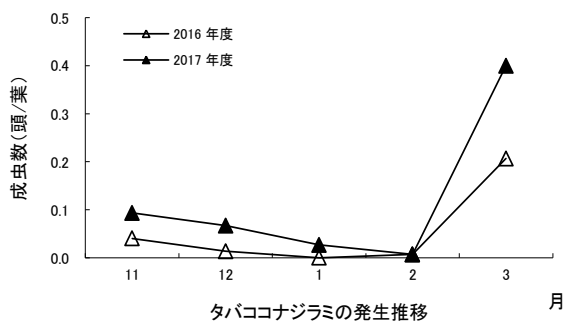
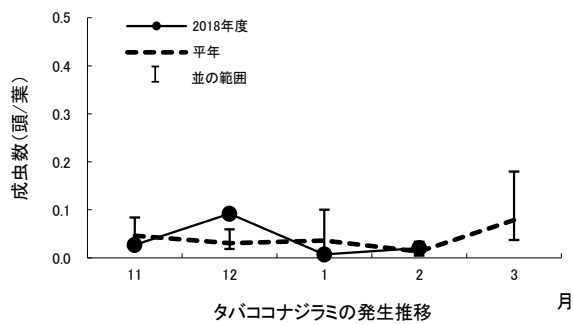
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 寄生葉率（%）：1.2（前年6.6、平年21.1、判定「やや少」）
- ・ 被害葉率（%）：63.2（前年13.2%）

防除のポイント

- ・ 多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌病が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・ 防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ タバココナジラミ		
2月の発生量（現況）		並	
3月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		成虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。	

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫数（頭/葉）：0.1未満（前年0.1未満、平年0.1未満、判定「並」）

防除のポイント

- ・ 多発すると葉にシルバリング症状を引き起こし生育不良となる場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



吸汁による葉のシルバリング